

休眠預金活用事業における 社会的インパクト評価の実施について

～活動支援団体に関する評価～

2024年7月
JANPIA評価チーム

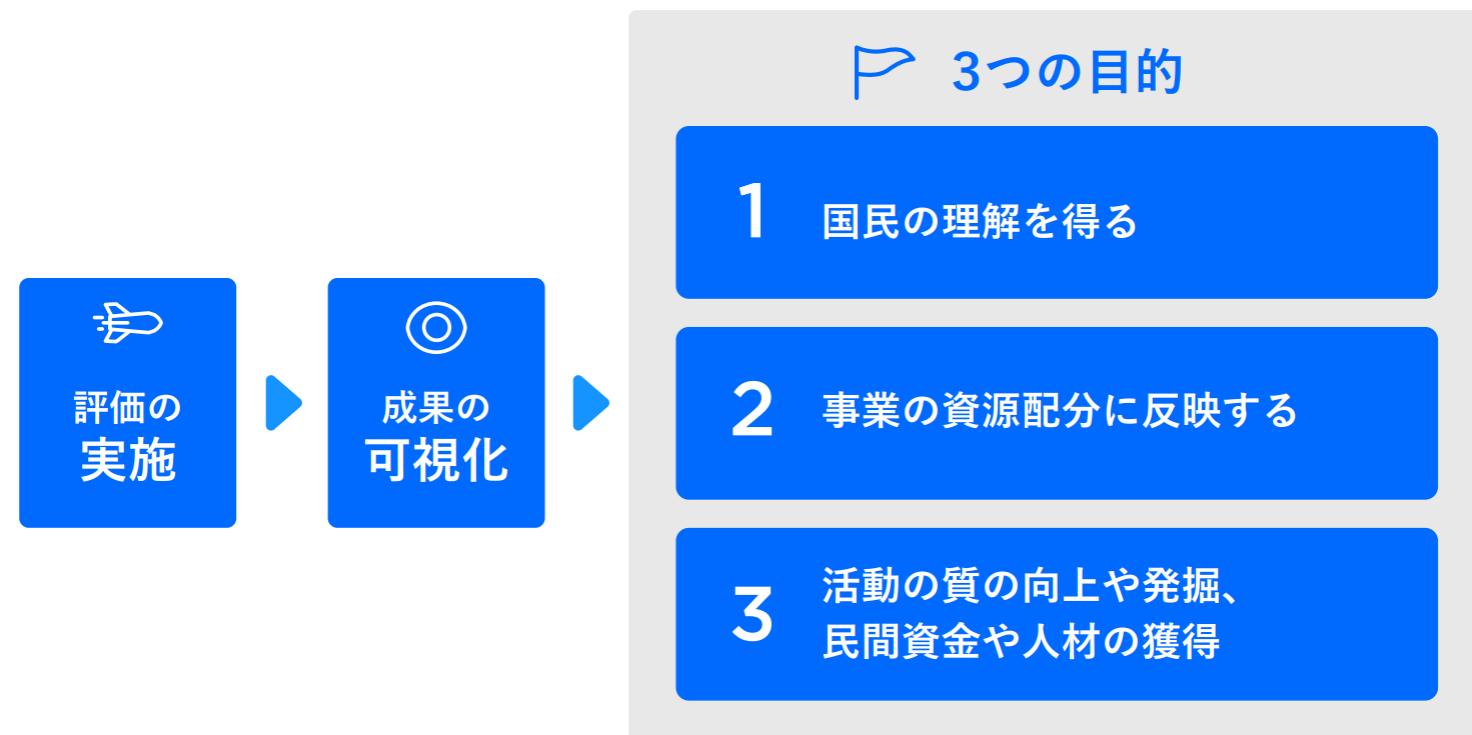


休眠預金活用事業における評価の意義・目的



休眠預金は国民の資産であり、その活用にあたっては最終的に社会の諸課題の解決を図るという「成果」を国民に目に見える形で生み出すことが求められる。

[『休眠預金等交付金に係る資金の活用に関する基本方針』](#)より



[「休眠預金活用における社会的インパクト評価」](#)より

休眠預金活用事業における社会的インパクト評価



短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた**社会的、環境的な「変化」や「便益」等の「アウトカム(短期・中期・長期)」を定量的・定性的に把握**し、当該事業や活動について価値判断を加える（評価を行う）こと。
「インプット」、「活動」、「アウトプット」から「アウトカム（短期・中期・長期）」に至るまでの論理的な結びつきを明らかにした上で、計画、実行、分析、報告・活用の4つの評価過程を経て実施される。

【3つのポイント】

[『資金分配団体・活動支援団体・実行団体に向けての評価指針』](#)より

① アウトカム

アウトカムは、社会に起こる望ましい変化、社会的課題が解決された状態、受益者や関係者、地域や環境への変化を指す。

② 論理的な結びつき

アウトカムだけを見るのではなく、問題解決に至るまでの事業のニーズ・セオリー・プロセスを可視化し、検証・改善していく。

③ 定量的・定性的に把握

定量と定性の情報は相互に補完するものと捉え、定量と定性の両方の情報を把握していく。

[『休眠預金活用における社会的インパクト評価』](#)より

休眠預金活用事業における社会的インパクト評価



アウトカム設定のポイント

Step3 事業設計図を描く

①実現したい社会の状態（長期アウトカム）
育成された担い手が社会課題解決に取り組むことによって実現したい社会の状態

②事業終了2～5年後に実現したい状態（中期アウトカム）
活動支援によって、支援対象団体がどのような状態になり、どのように社会課題解決に寄与しているか、社会にインパクトをもたらしているか。

支援対象団体の状態
対象地域の状態

③事業終了時までに実現する状態（短期アウトカム）
上記に設定した目標状態を達成するために必要な「前提条件」は何ですか。

支援対象団体の状態
対象地域の状態

④活動支援プログラムの内容
⑤支援対象団体が行う活動（課題解決の取り組み）

*地域を対象としない場合や記載が難しい場合は空欄でも構いません。

アウトカムの設定

事業終了後に、

支援対象団体

対象地域

がどういう状態になってほしいのかを明確にする

事業の成果として「事業終了後に何を残すのか？」
を意識して活動に取り組むことを求めています。

2023年度活動支援団体公募 事業設計図補足資料（任意利用）より抜粋

1 自己評価が基本

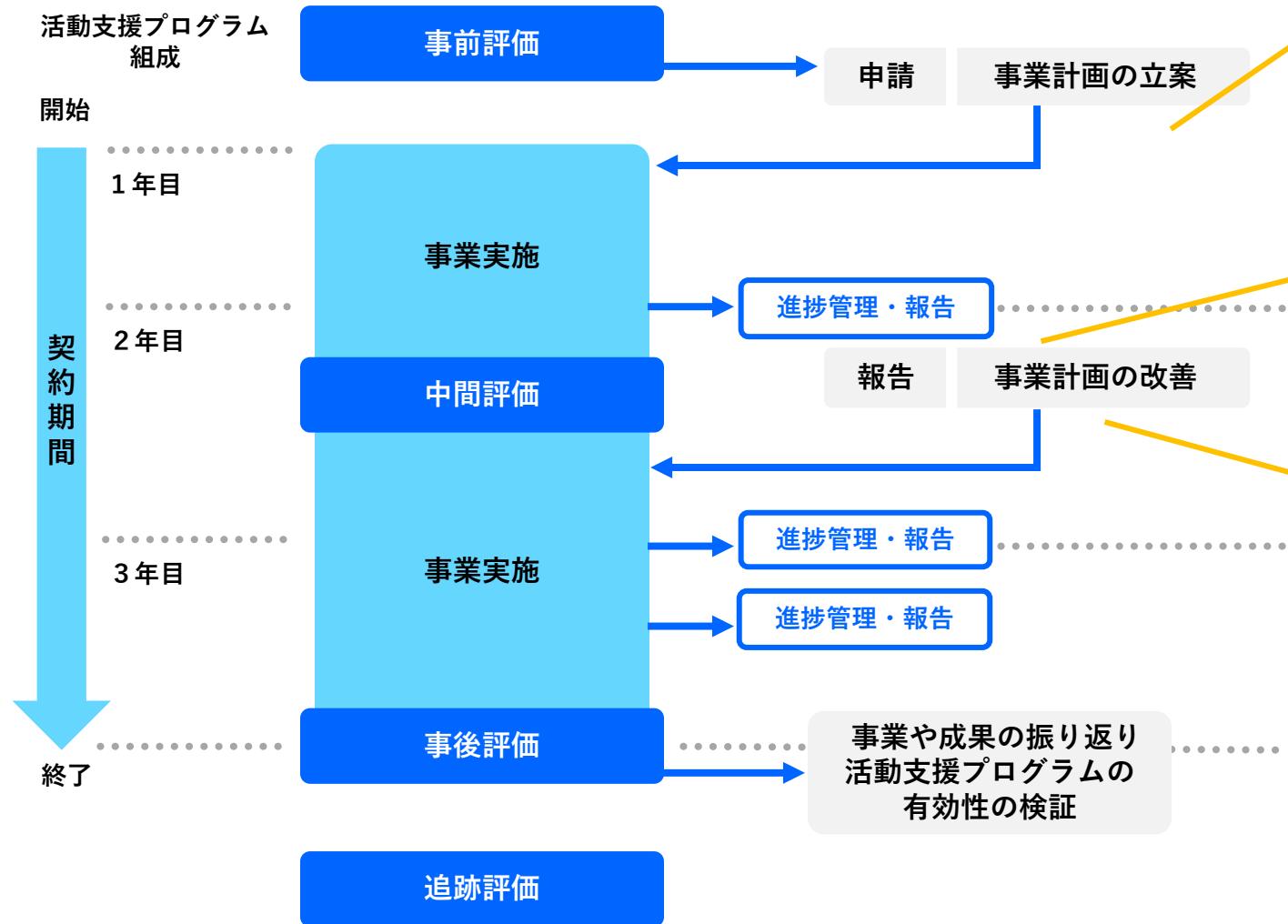
評価の客觀性や正当性を確保するという前提で、評価の全過程において、事業の実施主体が自ら行う「自己評価」を基本としています。支援対象団体は、活動の進捗状況、自らが設定した目標の達成度や活動支援団体による非資金的支援の効果等を把握し、活動支援団体にフィードバックすることとし、社会的インパクト評価の実施を一律には求めません。



休眠預金活用事業における評価の特徴



2 評価の実施時期は原則 3 回



事前評価は、申請時にご提出いただいておりますが、事業開始や支援対象団体の公募を踏まえて、追加的に実施して改訂いただくことも可能です。

事業期間が1～2年の活動支援プログラムについては、JANPIAと協議の上、中間評価を省略することができます。

活動支援プログラムの組み立て、支援対象団体の公募を複数回行う場合など、中間評価（事業改善のための評価）のタイミングを個別に相談させていただく場合があります。

休眠預金活用事業における評価の特徴



3 「評価の5原則」による評価の質の担保

評価の5原則	
1	多様な関係者の参加、連携、協働 多様な関係者の幅広い参加、連携、協働
2	信頼性 信頼できる方法で収集するなど、適切な情報を使用する
3	透明性 活動状況や調査、成果などは、正確かつ誠意ある情報開示、説明や報告を行う
4	重要性 事業を遂行するうえで重要な事項や、組織内外の関係者の意思決定に役立つ事項など、特に重要と判断される項目を選択して評価する
5	比例性 組織の規模、資源や目的などに応じて、評価方法や報告・情報開示の方法を選択する

多様な関係者が参加していることは、評価の質を高めます

信頼性の高い情報で評価しましょう

情報の開示は正確にわかりやすく行いましょう

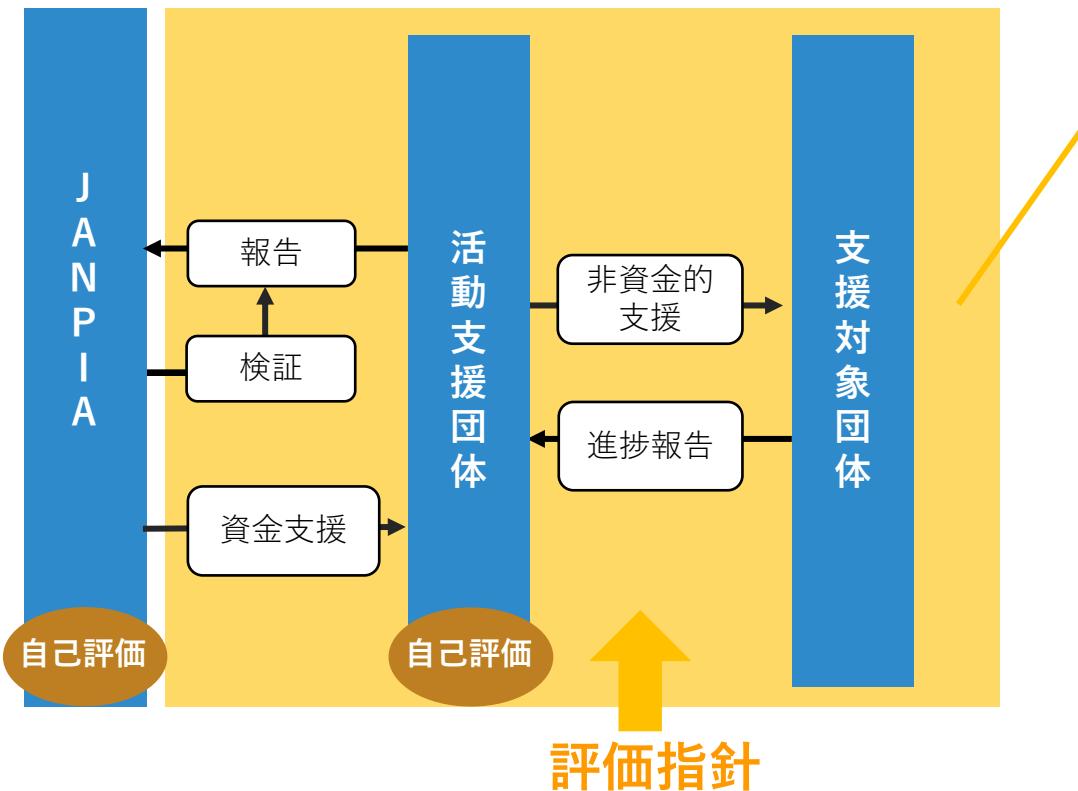
事業の中で特に重要な内容についての評価を優先しましょう

組織の背丈にあわせた等身大の評価を行いましょう

活動支援団体の評価～評価指針より



解決しようとする社会課題、**支援対象団体が自立や休眠預金等活用事業への参入等に向けて抱える組織や活動上の課題を明らかにし**、活動支援プログラムによって、支援対象団体が優先的に解決すべき社会課題の解決に向けた活動の**担い手として成長、発展しつつあるのかを捉え**、それに対して**当該プログラムがどう有効であるのか**、又は**課題があるのかなど**、当該プログラムの機能や役割等について分析することで、ソーシャルセクター全体に貢献できる学びや知見、教訓を導き出すことが大切です。



支援対象団体は、活動の進捗状況、自らが設定した目標達成度や活動支援団体による非資金的支援の効果等を把握し、活動支援団体にフィードバックすることとし、社会的インパクト評価の実施を一律には求めません。

[『資金分配団体・活動支援団体・実行団体に向けての評価指針』](#) より

2. 活動支援団体に関する評価の特徴

(1) 活動支援団体による自己評価と支援対象団体による報告

評価の客觀性や正当性を確保するという前提の下、活動支援団体による自己評価を基本とします。活動支援団体は、社会的インパクト評価を実施する際、外部の評価専門家へ相談するなどによって評価に係る時間と労力の軽減を図り、効果的・効率的に実施することが求められます。なお、支援対象団体には、社会的インパクト評価の実施を一律には求めませんが、当該団体は、**活動の進捗状況、自らが設定した目標の達成度や活動支援プログラムによる支援の効果等を把握し、活動支援団体に報告します。**活動支援団体は、**支援対象団体からの報告内容も含めて自己評価をします。**

(2) 何を評価するのか

活動支援団体における評価については、活動支援プログラムを実施したことによる**支援対象団体の目標達成度を把握し、検証することに加え、当該プログラムの有効性**など活動支援団体自身の活動も含めて、総合的に評価を行うことが求められます。資金支援の担い手や民間公益活動を実施する担い手となる団体の支援に当たって、**活動支援プログラムの有効性や課題、当該プログラムの機能や役割等について分析することで、ソーシャルセクター全体に貢献できる学びや知見、教訓を導き出すことが大切です。**

支援対象団体の支援対象活動計画書（＝事業計画書）の様式、進捗報告の様式などで、活動支援団体のアウトプット・アウトカムの進捗が把握できるよう、また、非資金的支援へのフィードバックが得られるよう工夫してください。

参照：

基本方針（P.12）

支援対象団体に期待される役割

③自らが設定した目標の達成度やその効果を把握し、活動支援団体にフィードバックすることにより、本制度の一層の改善につなげる。

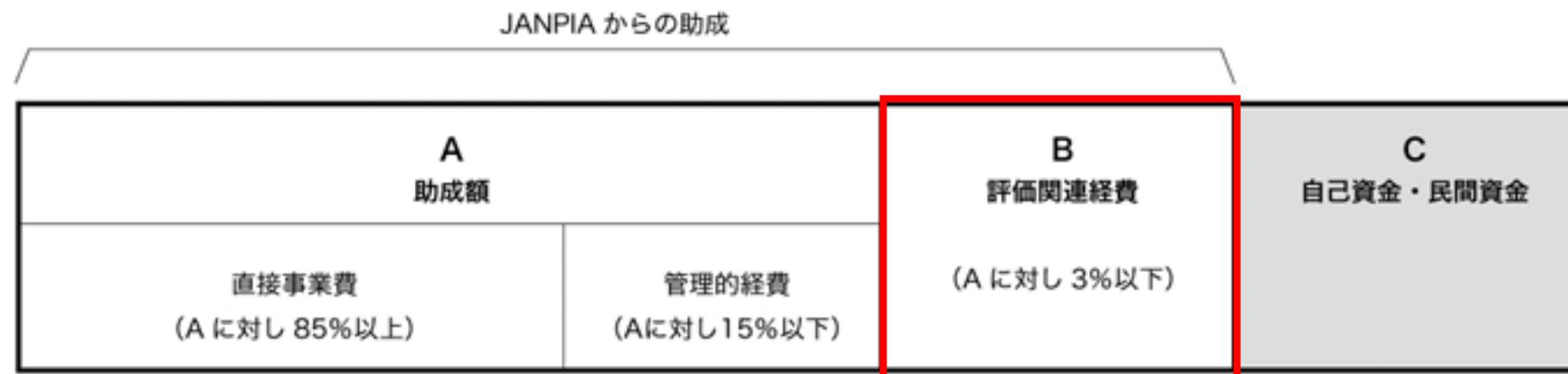
[『活動支援団体に関する評価のガイドライン』より](#)

評価関連経費の目的と活用



評価関連経費とは、質の担保された自己評価を実施するために必要な支援を受けるために助成する費用です。

[総事業費の概念図]



(2023年度通常枠 活動支援団体公募要領より)

● 評価アドバイザーの活用費用 ~団体の評価スキルの補完を中心に~

- ロジックモデル等の作成・検証
- 指標の設定（進捗確認をする方法を含める）
- 指標測定のための調査設計（客観性の高い現状把握調査等の実施）

● 分野専門家の活用費用 ~活動支援プログラムへのインプット~

- 既存の取り組みからの教訓を取り入れる
- 指標の設定方法（例：助成期間に達成することと、中長期で目指すこととの接合）
- 定点でフィードバックをもらう機会を設定する（半期ごと、1年ごとなど）
- 「外部評価委員会」・「審査委員会」・「検討委員会」などを設置

● 団体同士の学びあいにかかる費用 ~ピアラーニングの場の設定~

- 勉強会、現場視察、進捗発表会の開催
- 上記実施した内容をまとめ(編集・デザイン等)、印刷、発行など

● 現状把握調査の実施費用 ~広く活用できるデータの収集~

- 文献調査の実施
- アンケートの設計（構造化インタビュー、半構造化インタビューの作成、アンケート対象者の抽出、アンケート依頼・アンケート項目の作成、アンケートの分析（検定））